

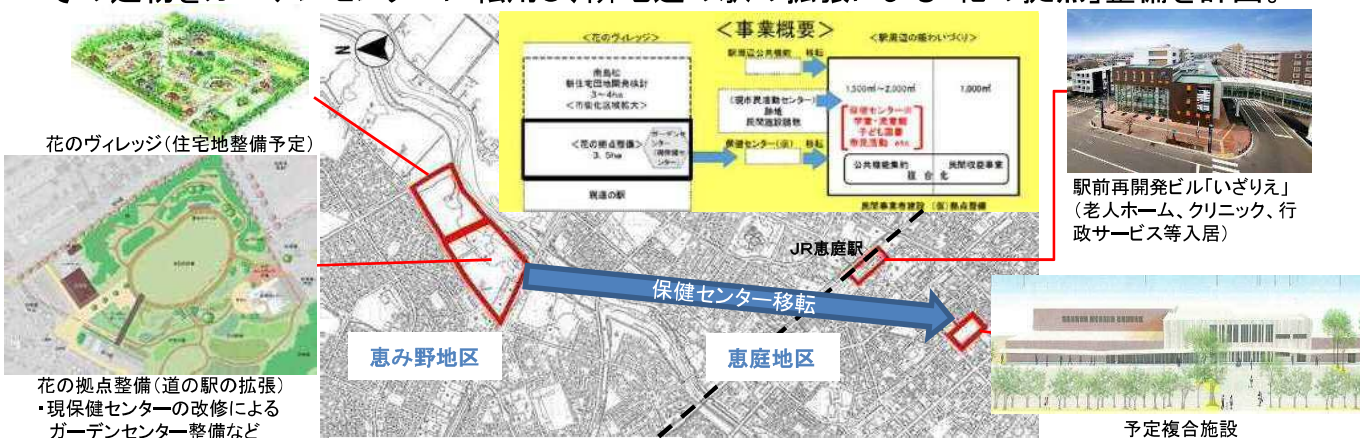
【北海道恵庭市】住民主体の花のまちづくりと民間活力による官民複合施設整備による賑わいづくり

- ・花苗生産地である恵庭市において、住民主体で、個人の庭を対象にしたオープンガーデンコンテストや商店街の街並み景観整備等を実施するとともに、道の駅での「花の拠点」の整備により、花のまちづくりを推進。
- ・恵庭駅前に公共施設の移転集約を図り、民間活力により官民複合施設を整備し、賑わい拠点を形成。

主なソフト・ハード事業

○「恵み野地区」における住民主体による「花のまちづくり」の推進

- ・花苗生産地である恵庭市において、花苗生産者、町内会、学校等が参加する「花いっぱい文化協会」(1961年設立)により、長年にわたり、公共花壇のデザインや、花の生育状況等を表彰する花壇コンクール等を実施。
- ・ニュージーランドの田園都市クライストチャーチの取組に感動した花の愛好家らによる「恵み野花づくり愛好会」(1990年設立)により、個人の庭を対象にしたオープンガーデンコンテストを実施(2001年～2009年)。ガーデニング愛好家が増加し、沿道のまちなみ景観への関心が高まった。
- ・花のまちづくりが周辺の町内会や商店会に波及する中、恵み野地区の11団体により「美しい恵み野花のまちづくり推進協議会」が設立(1997年)され、協議会の働きかけにより、市役所に花に関する一元窓口「花と緑の課」を設置。官民連携により、「花のまちづくりプラン」を策定し、イベント「花とくらし展」、花マップの作成、全市域を対象としたコンテストの開催等を推進。観光客・移住者の増加や商店街の空き店舗減少に寄与。(観光客 1998年 約33万人⇒2015年 約135万人)
- ・恵み野地区では、花のまちづくりにより観光客は増加したが、ガーデニングに関する拠点施設がないことから、現保健センターを駅前へ移転させ、その建物をガーデンセンターに転用し、隣地道の駅の拡張による「花の拠点」整備を計画。



○恵庭駅前への公共施設の移転集約と民間活力による官民複合施設の整備

- ・恵庭駅前再開発において、デベロッパーの民間活力を活かし、有料老人ホーム、商業施設、公共サービス等の官民複合施設を整備(2015年)。開発業者は、民間施設部分をヘルスケアリートへ売却し、開発資金を回収。
- ・さらに、駅前市有遊休地への保健センター移転とあわせ、健康増進施設・図書館等の複合施設を民間活力により整備予定。

≪官民協働≫

【民】住民主体で愛好会や協議会を設立し花のまちづくりを推進。恵庭駅前再開発ビル整備を主導
 【官】花のまちづくりを推進する「花と緑の課」設置。「花の拠点」整備。恵庭駅前再開発ビル整備支援

≪市の総合戦略における関連KPI≫

・観光入込客数 1,332,561人(2014年)
 ⇒1,460,000人(2019年)

今後の取組

- ・総合戦略(H28年12月改訂)において、上記関連事業を「ガーデンデザインプロジェクト」として位置づけ、各種事業を横断的に展開。